

救命処置 Q&A

Q. 子どもに対する救命処置は大人と違うのでしょうか？

A. 現在の救命処置は、大人との違いをできるだけ気にしなくても済むよう工夫されていますが、次の点で異なります。

● 1歳未満の場合

- ・救助者が自分一人の場合は、2分間心肺蘇生を行ってから119番通報する*
- ・人工呼吸は、子どもの口と鼻を口で覆うようにして息を吹き込む
- ・圧迫する場所は胸の真ん中から少し足側の部分。中指と薬指の2本で圧迫する
- ・圧迫の強さは胸の厚みの3分の1が目安
- ・AEDの使用は不可

● 1歳以上8歳未満の場合

- ・救助者が自分一人の場合は、2分間心肺蘇生を行ってから119番通報する*
- ・圧迫の強さは胸の厚みの3分の1が目安

● 8歳以上の場合

- ・基本的に成人と同じ

※子どもは呼吸が原因で心肺停止することが多いため、一刻も早い酸素供給が求められます

Q. 心肺蘇生法を止めるのはどんなときですか？

A. 救急隊が到着したときです。倒れたときの状況や実施した救命処置、AEDによる電気ショックの回数などを、できるだけ救急隊員に伝えてください。

また、倒れていた人が動きだす、うめき声を出す、正常な呼吸を始めたときも止めてください。ただし、気道確保が必要になるかもしれませんので、慎重に観察しながら救急隊を待つ必要があります。このような場合でも、AEDの電極パッドははがさず、電源も入れたままにしてください。

【注意】

健康な人に心肺蘇生法やAEDを試すのは非常に危険です。絶対にしないでください。講習会を受講し、人形を使って練習しましょう。



胸骨圧迫を行う

⑤胸の真ん中（乳首と乳首の間）に手を置き、もう一方の手を重ねて30回圧迫する。胸が4～5センチ沈む程度の強さで、1分間に100回の速さで行う。AEDがなければ④に戻り、繰り返す



AEDの電源を入れる

⑥AEDが到着したら、ただちに電源を入れる。電源を入れると音声ガイドが流れるので、以降はAEDの指示どおりに操作する



人工呼吸を行う

④気道確保した状態で鼻をつまみ、相手の口を覆うようにして息を吹き込む。2回続けて行う



電極パッドを患者の胸に張る

⑦AEDの電極パッドを倒れている人の右肩と左脇腹にしっかり張る。電極パッドには、張り方が書いてあるので参考にすることもよい



気道確保して呼吸を確認

③あごを持ち上げて頭を後ろに反らし、空気の通り道をつくる。自分の顔を相手の口と鼻に近づけ、胸の動きを見ながら、息をしているか確かめる



119番通報し、AEDを取り寄せる

②周りの人に119番通報とAEDを持ってこよう依頼する。誰もいなければ自分で通報する



意識を確認する

①人が倒れているのを発見したら、肩をたたきながら大きな声で呼び掛ける

心肺蘇生法とAEDの使用手順



解析ボタンを押す

⑧解析ボタンを押すとAEDが心電図の解析を開始。その際に、誰も体に触れないよう大きな声で周りに伝える



除細動ボタンを押す

⑨電気ショックが必要とAEDが判断したときは、除細動ボタンを押す。感電の恐れがあるので離れるよう指示する。以後、AEDを装着したまま、④⑤を繰り返す



心室細動に威力を発揮するAED

◇ AEDの電気ショックが心臓の動きを取り戻す

突然心臓が止まるのは、心臓がブルブルと細かく震える「心室細動」によって生じることが多いといわれています。この場合、できるだけ早く心臓に電気ショックを与え、心臓の動きを取り戻すことが重要です。

AEDは、この電気ショックを行うための機器です。コンピューターによって自動的に心室細動かどうか調べて、電気ショックが必要かどうかを決定し、音声メッセージで電気ショックを指示してくれます。生後1年未満の乳児以外に使用可能で、どなたでも簡単・確実に操作が可能です。

心室細動になってから電気ショックを行うまでの時間が1分遅れるごとに、生存したまま退院するチャンスが7～10%ずつ低下するといわれています。AEDが備え付けてある施設では、積極的に利用するようにしてください。

人間の脳は、体の中で最も酸素を消費する臓器ですが、酸素を蓄えておくことができません。心臓や呼吸が止まってしまうと、脳に酸素が供給されなくなり、4～6分で深刻なダメージを受けてしまいます。そこで心肺蘇生法が必要となるのです。心肺蘇生法によって新鮮な酸素を体内に送り込み、血液を循環させることで、脳へのダメージを軽減することができます。

◇ 有効な2つの救命処置
心肺蘇生法とAED

心肺蘇生法とAEDが「命」を救う

